国境の町（1933）

OKRAINA
OUTSKIRTS
THE PATRIOTS［米］

メディア 映画
ジャンル ドラマ　コメディ
製作国 ウクライナ
色彩 B&W
時間 96分
初公開日 1992/12/19
公開情報 国際シネマ・ライブラリー提供／シネセゾン

【解説】

反戦と革命をテーマにしながら、のびやかで溌剌とした“喜劇”たり得ている、まさに作者バルネットの理想とする、ドラマティックな要素を持った喜劇（あるいは喜劇的要素を持ったドラマ）の具現化。エイゼンシュテインやプドフキンといった大きすぎる名前に隠れて見えなかったこの天才が、実に豊かな様々の試みがなされていたスターリン体制以前のソ連映画の成熟を教えてくれた。帝政ロシア。片田舎の国境の町をもドイツの宣戦布告の報は震わせた。靴工場の主人グレシンと卸売商は、軍靴供給の野心たぎって“愛国心”の名の下に住民たちの士気を鼓舞する。結局は地主や資本家の利益保守のため、息子・夫・恋人・兄弟を奪われる女たちの心中は複雑だ。革命運動に熱心だったニコライは雇い主に憎まれ、職場を追われるようにして徴兵された。弟セニカは狂信的な愛国演説に毒されて自ら志願兵として前線へ。しかし、戦場の現実に彼の身はすくんだ。おりしも、国境の町には捕虜のドイツ兵が送られて、労役に従事した若い一兵卒ミューラーはグレシンの娘、マリアに魅かれる。彼女とて気持ちは同じだった。そこに二月革命勃発。臨時政府もまた戦争推進に拘ったので、ボリシェヴィキが力を伸ばし、前線の兵士たちの心をも捉えていった。ニコライは和平を望んで塹壕を出、上官に撃たれて傷を負うが、革命支持の行進は最早だれにも止められない。国境の町でも、敵兵ミューラーでさえ同じインタナショナリストとして赤軍の隊列の中に笑顔を輝かせていた……。という定石通りのお話なのだが、プロパガンダ臭とは無縁の闊達な語りに、ただ“良き変化”を希望する民衆の当り前の心情だけがすくいとられ、それが感動的である。純粋に映画（つまりサイレント）の作法を心得たバルネットだからこその身体的ギャグの数々が作品中、星のごとく煌めいている。

【クレジット】

監督	ボリス・バルネット	Boris Barnett
原作	コンスタンティン・フィン	Konstantin Finn
脚本	コンスタンティン・フィン	Konstantin Finn
	ボリス・バルネット	Boris Barnett
撮影	ミハイル・キリロフ	
	Ａ・スピリドノフ	
音楽	セルゲイ・ワシレンコ	
出演	エレーナ・クジミナ	Yelena Kuzimina
	セルゲイ・コマロフ	Sergei Komarov
	ハンス・クレーリング	
	アレクサンドル・チスチャコフ	Aleksandr Chistyakov

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.